

氏名	三 輪 啓 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年12月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Arthroscopic surgery for traumatic triangular fibrocartilage complex injury (外傷性三角線維軟骨複合体損傷の関節鏡視下手術)
論文審査委員	教授 大塚 愛二 教授 田中 紀章 助教授 伊達 洋至

学位論文内容の要旨

1995年から2002年に外傷性三角線維軟骨複合体(TFCC)損傷で関節鏡視下手術を行った58例62手について予後調査を行った。Palmer分類でClass1A:10手、Class1B:27手、Class1C:8手、Class1D:17手であった。一泊入院で腕神経叢ブロック下に我々の独自に考案した引き抜き縫合法、もしくは鏡視下デブライドを施行した。Palmer分類のClass1B、1Dに対しては引き抜き縫合法を用いた。Class1Bでは鏡視下に尺側手根伸筋腱鞘にTFCCをPDSを用いて引き抜き縫着させた。Class1Dの縫合に対しては橈骨に骨穴を作成し、TFCCを縫着した。Minamiらの判定基準にて、術後成績は縫合法では優16手、良15手、可1手、不可1手であった。デブライドでは優16手、良10手、可2手、不可1手であった。TFCC損傷におけるClass1B、1Dに対する引き抜き縫合法は簡便であり、強固な固定が得られることが分かった。

論文審査結果の要旨

本研究は、外傷性三角線維軟骨複合体損傷に対する治療として、新しい関節鏡下手術手技である「引き抜き縫合法」とそのためのループワイヤーを開発し、手術症例の予後調査統計を行ったものである。本調査では、本方法と従来から行なわれてきたデブライド法とを比較し、手術を施行した58例62手について調査した。本方法は、腕神経叢ブロックのもとに行なうことができ、簡便で一泊入院で施術可能であるという利点に加え、従来からの手術方法であるデブライド法に比較して劣らない治療成績をおさめ、損傷部位の形態的復元が可能であることを示した。本研究による治療法の開発は、当該傷病の患者治療の成績を高める価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。